

令和4年度 第3回 積志中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年11月21日（月）15時30分から16時30分まで
- 2 開催場所 積志中学校 会議室
- 3 出席委員 今宿 康一、上野 由紀夫、三輪 清、岡本 知之、林 和法、北 一樹、高橋 美香
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 太田 克美（社会福祉協議会副会長）、高林 尚孝（地域防災責任者（積志中））、塚本 篤（積志交番駐在員）、太田 亮平（PTA副会長）、長谷川 真理子（PTA学年代表（2年））、竹村 知子（PTA学年代表（3年））
- 6 学 校 森田 忠（校長）、永田 行央（教頭）、高林 昭寿（CS担当）、北寒寺 知子（CSディレクター）、豊田 朋士（教職員代表）、内藤 礼乃（教職員代表）、山下 良実（教職員代表（養護教諭））、生徒会会長、生徒会副会長、生徒会副会長、学年代表（1年）、学年代表（2年）、学年代表（3年）
- 7 教育委員会 小川 誠司（教育総務課）
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 協議事項
（1）積志中の未来を考える会
- 10 会議録作成者 CSディレクター 北寒寺 知子

11 会議記録

司会から、委員総数7人のうち7人全員の出席があり、過半数に達するため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）議長選出

議長については、第1回の会議で、本年度は年間を通して岡本委員に務めていただくことが決定していたため、岡本委員に進行をお願いした。

（2）積志中の未来を考える会

冒頭で、岡本委員より「積志中の未来を考える会」の趣旨説明があった。生徒と保護者を対象に行ったコミュニティスクールに関するアンケートの結果に対して、各委員、出席者から以下の発言があった。

①コミュニティスクールの認知度について

- ・生徒、保護者も約7割が「知らない」と答えている。コミュニティスクールは本年度スタートしたばかりであり、まだ大きな活動もしていないので、当然の結果である。むしろ、3割の生

- 徒、保護者から「知っている」と回答があったことを前向きに捉えている。(岡本委員)
- ・今後、いろいろな活動をしていくことで、3年後にはコミュニティスクールの認知度を100%になることを協議会の目標として設定したい。(岡本委員)
 - ・委員の任期が2年なので、3年目に達成したかどうか見ることができるかどうか分からない。(北委員)
- 保護者、PTAに対してはホームページやCSだより等を通して、進捗状況をお知らせしていきたい。(岡本委員)

②積志中に入学してよかったと感じていますか？

<生徒>

- ・生徒会の活動に対して多くの生徒が協力してくれる雰囲気がある。校内で生徒同士の挨拶の声もよく聞こえるので、生徒は楽しんで学校生活を送っていると思う。(生徒会会長)
- ・勉強と部活動を両立し、充実した学校生活を送ることができているので、入学して良かったと思っている。(1年代表)
- ・自分は部活動に入っていないが、部活動であった嬉しいことなどを共有してくれる友人がいる。そのように、いい友人関係を築くことができているので、入学して良かった。(3年代表)
- ・校舎が古い、学校までの距離が遠い等の回答もある。行政への働きかけも必要。(岡本委員)
- ・勉強についていけない生徒のサポートを、コミュニティスクールの取組として考えていけないだろうか。(岡本委員)

<保護者>

- ・アンケート結果から大多数の生徒は入学して良かったと思っていることがわかるが、保護者の半数くらいはそのように思っていないこともわかった。(岡本委員)
 - ・先生方が子供の様子をよく見てくれていることをありがたく感じている。(長谷川さん)
 - ・部活動での失敗に対して顧問の先生は責めずに粘り強く指導してくれているのを、子どもを通じて感じている。授業中の生徒への関わり方の面でも、先生方は生徒の自尊心を大切にしてくれていると思う。設備は古いと思うので、改善していくと良いと思う。(竹村さん)
 - ・心に問題を抱えている生徒が多いと聞くが、積志中の現状はどうか？(岡本委員)
- 多くの生徒が先生と話をしたいという気持ちを持っていることを日々、実感している。そのため、生徒と会話する時間を設けるように努めている。各学年の先生も生徒の話をよく聞いている。スクールカウンセラーの力も借りながら、学校全体として生徒に寄り添うような指導ができるように心掛けている。(山下養護教諭)

③今後、積志中がさらによくなっていくために、どのような点を改善していくとよいと思いますか？

- ・生徒と保護者の意見がかなり大きく違っている。(岡本委員)
 - ・中学生と地域がつながりをもてるようなアイデアはないか？(岡本委員)
- 地域の方が授業の中で積志の歴史などを話す機会を設けてはどうか。(三輪委員)
- 生徒、保護者からは学校の設備面について、多くの要望が出ている。校舎建て替えは費用の面などで難しいが、できるところをリフォームするのはどうか。(高林さん)
- ・積志中における教師と生徒の関係はどのような感じなのか？(岡本委員)
- 中学校は教科担任制であること、部活動指導や生徒会活動などのいろいろな業務があることで、自分のクラスの生徒との関わりが少なくなっている現状がある。(豊田教諭)
- 担当している科目が週あたりの授業時間が少ない美術であること、放課後は部活動があることなどの理由から自分のクラスの生徒との時間がなかなかもてないというのが現状。申し訳なく感じる。(内藤教諭)
- 先生と話す機会がなかなか持てない、学級担任や部活動顧問など、関わりのある先生に対しては話しかけやすさを感じている。(生徒会副会長)

④生徒・保護者の立場で、地域の方々に期待することや要望などを教えてください。

- ・体育大会のソーラン節で使う法被について、浜松まつりに参加していない家庭も増えてきており、各家庭での法被の確保が難しく、数が集まらない現状があると聞いた。コミュニティスクールの取組として地域に働きかけをし、使用していない法被があれば、学校へ寄付をしてもらえるように呼び掛けるはできるのではないかと。(岡本委員)
- ・コミュニティスクールの取組や地域の力で改善できそうなことはないか？(岡本委員)
→学校の施設設備を変えることは自分たちでは難しい。生徒会の取組を地域に発信し、協力を呼び掛けて、地域の方を活用してほしい。(上野委員)
→学校の先生たちにもう少しゆとりがあれば、改善できることもあると思う。放課後、地域の方が学校に来て、中学生への学習支援をするなど、コミュニティスクールの取組に任せる部分は、完全に任せてしまった方が、先生が業務に当たれる時間も生まれるのではないかと。(太田PTA副会長)

⑤将来、浜松で生活していきたい(生活してほしい)と考えていますか？

- ・約50%の子供たちが浜松以外で生活したいと回答している。子供たちが浜松以外の場所に行って活躍したい、生活したいと考えるのはたくましい意見だと思うが、逆に言うと浜松を去ってしまうことになるので、いろいろな側面を考えると大きな損失になると思う。(岡本委員)
- ・自分は、浜松の外で生活したことがないから、浜松以外の場所を知りたいという気持ちがある。その結果、最終的に浜松で生活することを選択する可能性は十分にある。(生徒会副会長)
- ・自分は工業の分野に興味がある。その点で浜松は発展しているので、浜松で生活していきたいと今は思っている。浜松市外を希望している生徒というのは、他の世界を見てみたいと思う気持ちもあるからだと思う。(2年代表)

⑥積志中のコミュニティスクールに期待すること

- ・それぞれの立場の人たちが単独で何かをやろうすると難しいが、コミュニティスクール、学校、PTA、地域が連携して行くとできるものがある。(岡本委員)
- ・出された意見の中には、今後、コミュニティスクールとして取り組んでいけることのヒントが多くあるので、精査し、優先順位をつけながら、来年度から具体的に取り組んでいきたい。そのためにも、今年度以内に来年度取り組む具体策を作成し、人材と資金を確保していくことが重要だと考える。(岡本委員)

◎その他

- ・地域全体の交通マナーの向上という意見も出ているが、どのように考えますか？(岡本委員)
→市内でも信号無視などの交通ルール違反によって大きな事故が起きている。交通マナーの向上は過去からずっと言われており、なかなか改善しないのが現状である。実際に事故が減っているのは車の性能の改善が大きい。子供たちの登下校時の安全を確保するためには、交通量が少ない道を通学路にすることで可能だと思う。しかし、歩道がないから通学路にできないという矛盾も出てくる。とにかく、小中学生の頃から交通安全に対する高い意識をもってもらうことが大切である。(塚本さん)
- ・今後どのような取組ができるかは協議会で議論し、みなさんにお知らせする。(岡本委員)

協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

その他報告事項等

- ・CS担当から、次回の学校運営協議会は、令和5年2月27日(月)15時15分から積志中学校会議室で開催する旨の報告があった。